

自然豊かな地域で芸術イベントを開催する意義 ー山形県鶴岡市大鳥音楽祭の魅力について考えるー

中野 詞温

近年、日本では人口減少や高齢化が急速に進行しており、地域の維持や今後の発展を考えることが重要となっている。山形県鶴岡市においても人口減少が続いており、山間部に位置する大鳥地区では、地域の将来に対する不安が募っている。一方で大鳥地区では「大鳥音楽祭」という芸術的な交流イベントが継続的に開催されており、地域内外の人々が交流する場が形成されている。

本論文では、大鳥音楽祭を事例として、自然豊かな地域における芸術的なイベントがどのような意義を持ち、人と地域の関係にどのような影響を与えているのかを調べて、交流の実態や意識について明らかにすることを目的とした。研究方法は文献、資料、インターネットを用いた調査とインタビューである。

その結果、大鳥音楽祭は音楽祭を一つの場として、参加者が単なる観客として音楽を消費するのではなく、自然の中で芸術に触れ、人と関わることで各々に精神的な喜びを感じてもらい仕組みが重要になっていることが明らかになった。その体験が、大鳥地区そのものへの関心につながり、継続的な関わりを生み出していると考えられる。

また、庄内地域で行われている他の芸術的な事例との比較を行った。他の事例では、地域文化の振興を重視する傾向があったり、人と関わるイベントでも継続的に何度でも行っているものではなかったりしたが、大鳥音楽祭は参加者同士での交流を毎年生み出し続けているという特徴を持つことが確認された。

以上を踏まえて、自然豊かな地域における芸術的なイベントは、経済効果や人口増加といった数値では測りにくい、人の感情や交流を基盤とした地域との関係性を育む重要な役割を果たしていることが示された。また、本論文は、地域づくりを考える上で、制度や数値だけでは捉えきれない価値に目を向ける必要性を再確認することが重要となっていることを指摘した。